

3期目の抱負を語る

任期満了(7月7日)に伴う厚真町長選挙が6月21日に告示され、現職の宮坂尚市朗氏(60歳)無所属のほかに届出がなかったため、無投票3選が決まり、6月27日には厚真町選挙管理委員会から当選証書が付与されました。

引き続き町政を担うことになった宮坂町長に3期目の抱負を伺いました。



道外から訪れた子どもたちと記念撮影(8月2日) 町職員から花束を受け取る宮坂町長(7月8日)

無投票3選という結果について

これまで町民の皆さんのご理解とご協力により、私の目指すまちづくりを実践してまいりました。厚幌ダム建設と厚真川総合開発事業、国営農業用水再編対策事業と道営ほ場整備事業などの進捗や子育て支援・教育環境の充実、移住・定住政策などを通じて、少しずつではありますが、その成果が現れてきていることに一定の評価をいただいたことによるものと考えています。

そういう意味では無投票当選という栄に浴することができたことは身に余る光栄であり、私に寄せていただいた厚い期待と使命の重大さに身の引き締まる思いであり、改めて町政を担う決意を新たにしているところです。

これまでの2期8年を振り返って

私の町政への挑戦は、人口減少に危機感を覚えたことに始まります。移住・定住や子育て支援、後継者の確保や人材育成、雇用や一次産業を中心とした生産空間の充実と拡大を目指してきましたが、就任して間もなくの「厚幌ダム建設事業の再評価」は衝撃的な出来事でした。

再評価に費やした時間と労力は多大なものでしたが、北海道のご尽力と町民の皆さんの熱意により、無事継続決定がなされたことは幸運でありました。事実として記録されるような出来事だったと思いますが、関連する国営農業用水再編対策事業、道営ほ場整備事業、統合簡易水道事業などの進捗に大きな影響が生じました。また、

高丘のゴルフ場開発跡地処理や公共工事費の大幅な増高など、当該地域の理解と町民ならびに関係機関の皆さんのご協力により、解決に向かった案件もたくさんありましたが、農政の大転換、農協法・農業委員会法などの改正、TPPの合意と一次産業を基盤とする当町にとって、今後の影響が懸念される問題・課題が山積しています。加えて、少子化と人口減少は、緩やかになったとはいえ、回復傾向までにはありません。引き続き戦略的取り組みが必要です。

町民の皆さんへメッセージ

私は、これまで一貫して「人を育て、人を残し、本町の豊かな自然と生産基盤を次世代に引き継ぐ」ことを目指してまいりました。

「人を育て、人を残し、本町の豊かな自然と生産基盤を次世代に引き継ぐ」ことを目指してまいりました。

食料とエネルギーと環境が整い、潜在力に満ち溢れた「あつま」で、みんなが夢と希望をかなえ、120年の歴史を刻む厚真町がその先の道へ歩みを進めるためにも、関係機関ならびに町民の皆さんの連帯が大切であると考えています。改めて町民の皆様には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



要望活動の様子(7月25日)

3期目の抱負

みんなが輝き、支持され選択されるまち、住み続けたいまち「あつま」を目指します。

3つの視点

今後4年間の町政は、次の3つの視点から運営してまいります。

①田園回帰1%戦略の実践

日本全体が人口減少時代を迎える中、厚真町の人口ビジョンを見据え、毎年人口の1%相当の移住・定住者を確保しながら、町内の経済循環も1%ずつ向上させる取り組みを続けて、安定性・持続性を確保します。

②あつまを知り、強みをいかす

厚真町の生産力、豊かな自然、社会基盤、都市部との距離の近さなど「豊かな森と海、輝く田園」の潜在力をいかした厚真町らしい持続的発展を目指します。

③住民主体の地域再生

若い世代が喜んで学校へ通い、エネルギーな世代が新しい道を切り開いて、先輩たちがその若い方々の手助けをしながら各世代が連携し、町民1人ひとりが主体的に活躍できる地域社会を目指します。

人を育て・人を残し、豊かな森と海、輝く田園を次世代へ

一緒に挑戦し続けましょう！！



PR用ポスター撮影風景

プロフィール 宮坂 尚市朗 (みやさか しょういちろう)
 昭和31年2月28日、厚真町生まれ
 昭和53年に国立室蘭工業大学卒業後、ホクレン農業協同組合連合会に勤務
 昭和56年から厚真町役場に奉職
 平成20年7月、厚真町長に初当選
 平成28年再選 3期目

7つの政策分野

3つの視点を基本に、次の7つの政策を推進していきます。

①健全な行財政運営

公共施設の適正配置、統合簡易水道事業の経営計画の策定など透明で公正な行政運営、合理的で計画的な財政運営に努めます。

②きめ細やかな社会福祉

地域包括ケアシステムの構築、健康増進計画の推進など安心な暮らしと住民満足度の向上を目指します。

③移住・定住の促進

創業・起業支援、子育て支援住宅の増設、空き家等対策強化、就職活動支援による移住・定住促進、シニア世代の社会参画の促進など子育て世代、シニア世代など様々な世代から愛されるあつまを目指します。

④子育て支援・教育環境の充実

子育て世代の経済的負担の軽減、子育て支援相談体制の充実など社会全体で養育・育成に取り組むとともに、子どもたちの才能・個性を伸ばし、豊かな心、健やかな体を育む質の高い教育環境を堅持します。

⑤産業・経営基盤の充実

生産基盤整備、担い手育成、経営体質強化、農林水産物のブランド化、農商工連携・6次産業化、サテライトオフィス誘致など農業・農村所得の向上により強くてしなやかな農業・農村を目指します。

⑥安全・安心な地域社会の形成

地域公共交通網の充実、市街地周辺部の土地利用促進、住宅の耐震化、防災拠点施設整備計画の策定、自主防災組織の育成など強靱な社会基盤と健全なコミュニティ機能により安全で、安心な暮らしを守ります。

⑦環境保全と交流促進

環境保全林・厚幌ダム周辺地区整備など美しい景観・豊かな自然の保全と利活用に努め交流人口の増加を図ります。